

令和3年度 世田谷区立 喜多見小学校 学校関係者評価自己点検表		A	B	C	D	E
		とても思う	思う	あまり 思わない	思わない	わからない
1 学習指導について						
自分は、子どもたちが授業の内容を意欲的に学ぶために工夫している。		2	29	3	0	0
自分は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。		3	26	5	0	0
自分は、子どもの話合いや発表などの機会を作っている。		5	28	1	0	0
自分は、映像やタブレットを工夫し、わかりやすい授業をしている。		2	26	5	1	0
理由 ・タブレットを研修を行っても使いこなせない現状があるので個人の課題である。 ・学年で教材研究できる時間をとれるようにしたい。 ・コロナ禍の中で、どの程度子ども同士の交流を持たせればよかったか、共通理解をしたかった。						
【改善策・考察】 ・授業の中で子ども同士の交流については、世田谷区から方針はでていたがそれについて本校独自の検討はなかった。今後、また新種の株が出てきたときのために検討する必要がある。 ・児童にとって分かる授業が展開できるように、引き続き教材研究を行っていく。また教員同士で互いの授業を見たり、教材研究を行うことができる時間を作り、よりよい授業づくりを行っていく。 ・区の方針と新型コロナウイルス感染症で、タブレットを活用した授業やオンライン授業が日常となった。今後も安定した学びの場を提供できるように、教員研修を行い、技能を高めていく。また、得手不得手はあるが、時代の流れに柔軟に対応し、積極的に活用していく必要がある。						
2 生活指導について						
自分は、学校のルールについて子供に考えさせる指導をしている。		6	27	1	0	0
本校は、教員が指導したルールについて子どもが理解している。		0	29	5	0	0
理由 ・各教員が日々の指導の際、「なぜいけないのか。」を丁寧に説明することを心掛けている結果である。 ・全体として見れば、ルールを逸脱するような児童が少ない実態がアンケート結果に表れている。						
【改善策・考察】 ・喜多見スタンダードを活用し、指導を行っている。また、毎週、週番の教員が生活指導のめあて（例えば「廊下は右側を歩きましょう」）を児童朝会で伝えている。そのめあての達成のために、各クラス指導をしている。しかし、児童は理解できていないのか改善まで至っていないところもある。児童に分かりやすく、実践したいと思う提案ができるような、児童の立場に立った改善策を今後考えていく。						
3 学校行事(運動会、学芸会、宿泊行事など)について						
学校行事は、子どもにとって楽しい。		15	19	0	0	0
学校行事は、子どもにとって達成感がある。		9	25	0	0	0
自分は、子どもの意欲を大切にしている。		9	24	1	0	0
理由 ・子どもたちは学校行事を楽しみにしている。 ・行事に対する意欲が子どもによってかなり違いがある。 ・校内研で学級活動(3)に取り組んでいることから、行事から次の行事に絡めてスキルアップしていければよいのではないかと。						
【改善策・考察】 ・学校行事の成功に向かって、児童が輝く姿を多く見てきた。今後も児童の活躍の場を大切に、達成感を味わわせられるように指導を続けていく。しかし、行事に対する意欲が子どもによってかなり違いがあるのが問題である。教員がどのように行事に対して向かわせていくかを検討していく必要がある。その改善策の一つとして、研究で取り組んでいることを生かして行事に向かう姿勢や次の行事とのつながりを考えさせたい。						
4 キャリア教育について						
自分は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している。		4	25	5	0	0
本校では、子どもの生き方や将来のことについて考える授業がある。		6	25	3	0	0
理由 ・子どもたちは、将来の自分や今の課題について考え、自ら行動しようとする子が多い。本校の研究活動が特別活動であることも一因であるかと思う。						

<p>【改善策・考察】 ・昨年度から本校は、学級活動(3)キャリア教育の研究を行っている。2年目になり、キャリア教育の大切さや授業の進め方など講師の先生のアドバイスもあり、実践できてきた。その成果が子どもたちのキャリアに生かせるように今後は、年間指導計画の整備やより児童のキャリアに結び付く授業展開を考え、提案していく。</p>					
5 教職員について					
本校の教職員は、ていねいに指導している。	7	27	0	0	0
本校の教職員は子どものことを相談しやすい。	8	25	1	0	0
<p>理由 ・ICT機器の普及により、より分かりやすい指導や教材を、学年で共有しやすくなった。 ・行事や校務分掌の打ち合わせが設定されている日が多く、子どもの話をする時間が後回しになってしまう。学年全員が職員室に集まれる機会が増えるよう、会議の設定をしない日を多く取ったり、5時間授業をふやしたりするなどの対策をとり、時間のゆとりを作りたい。</p>					
<p>【改善策・考察】 ・教職員同士、日々の教育活動や授業や児童の様子を学年や専科等に相談しやすい風通しのよい環境が本校にはある。そのため、学年で学習の進路を揃えたり、教材の共有、児童の情報交換などを適切に行い、それが丁寧かつ的確な指導につながっている。しかし、校務が多忙になり、保護者や児童に相談しにくい印象を与えている現状がある。改善のためには、組織や各々で働き方について考える必要がある。</p>					
6 本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。					
本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。	6	28	0	0	0
子どもは、家庭で自主的に学習をしている。	0	15	19	0	0
本校の教育活動に満足している。	2	31	1	0	0
本校は、近隣の(幼)・小・中学校で構成する「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている。	1	26	6	0	0
子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。	1	31	2	0	0
<p>理由 ・每学期学校生活アンケートを行っているが、その結果では、大半の(90%以上)児童が「学校生活は楽しい」という項目に「はい」と答えている。また、「いいえ」と答えている児童には、個別に聞き取りをし、学校生活が楽しくなるように環境改善やアドバイスを行っている。 ・新型コロナウイルスの影響もあり、児童の体力は落ちている。しかし、それを改善すべく、体育委員会を中心に体育朝会や休み時間の運動推進(運動委員会50周年記念ビンゴカードの実施など)を行っている。</p>					
<p>【改善策・考察】 ・上記のように、よい取り組みは今後も継続していく。 ・肯定的な意見が少なかった項目「児童の自主的な学習」について、宿題を毎日出しているが、きちんとやってくる児童とやってこない児童が固定化している。各学年×10+10分(例えば5年生だったら、5×10+10分=60分(1時間))を家庭学習として示しているが、宿題以外の学習をしている児童は半数程度である。家庭学習の充実には、児童の意識だけでは難しく、保護者の協力なくしてはできない。今後は学年だよりや保護者会時に協力願いを行っていく。</p>					
7 学校からの情報提供について					
本校は、学校だより・学年だよりなどで、保護者に情報提供している。	11	23	0	0	0
「学び舎」の区立(幼稚園・)中学校について情報が提供されている。	2	25	7	0	0
本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子がわかる。	3	28	3	0	0
本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。	8	24	1	0	0
<p>理由 ・「学び舎」による小・中連携や交流活動についてホームページや、学校だよりでお知らせしている。今年度から、「すぐーる」やyoutubeも活用して情報提供している。</p>					
<p>【改善策・考察】 ・学校だよりは写真を入れて作成していく方針であり、さらなる情報提供となると考える。積極的に取り組んでいく。 ・学び舎については、学校だよりを活用して今後も情報提供をしていく。 ・「すぐーる」の導入により、保護者への必要な情報の一斉連絡が容易となった。ホームページのアップと共に今後も継続して取り組んでいく。 ・学校公開等、実施できなかった行事においては、youtubeでの動画配信を行った。今後は感染状況を見て活用を考える。 ・ホームページは年間を通して不特定多数が自由に閲覧できるので、学校の基本方針や学校の概要を伝えることを掲載し、「すぐーる」は、緊急性のある情報を配信する等、吟味して情報を発信できるとよい。</p>					
8 地域との連携について					
本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。	5	25	4	0	0
本校は、地域に情報提供している。	2	28	3	0	1
理由					

	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が続き、通常時よりは地域との交流する機会が少なくなっている。その中でも可能な限り、地域の方をゲストティーチャーに招いたり、学校便り等で地域への情報開示を行ってきた。 					
	<p>【改善策・考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次大夫堀公園での田植え、稲刈り体験、キャリア教育でのゲストティーチャー、外環自動車道の見学など、喜多見ならではの活動ができていると考える。近年はコロナ禍のため実施が難しいこともあったが、明けてからも実施していけるよう、活動の記録を残しておく。 ・学校だよりやホームページ等で地域に向けて情報提供を行っている。今後も継続していく。 					
9	学校の安全性について					
	学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。	3	31	0	0	0
	本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。	9	25	0	0	0
	本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。	5	25	3	0	1
	理由 PTA活動の中で、災害への対応情報を提供している。不審者対応に関しては、毎年訓練はしているが、やはり教職員だけでは防ぎきれないところもあるのかと思う。学校単位での改善は難しいかと思うが、何かしら改善できたらと思う。					
	<p>【改善策・考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも避難訓練やセーフティ教室をできる形で実施したことは、安心・安全な学校作りへつながったと考える。 ・今年度は不審者対応訓練の様子を動画で撮影した。まずは児童と鑑賞し、どのような状況なのかを確かめたり、どのように対応すべきか話し合ったりすることに取り組んでいきたい。 					
10	学校運営について					
	学校の重点目標が明確である。	3	29	2	0	0
	校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	4	30	0	0	0
	理由 さらに、疑問に思った時の共通理解・コミュニケーションを図っていきたい。行事を含め学校の各活動について、提案時に重点目標との関連性について伝える。ねらいを「読んでおいてください」としても、重点目標のこのこと関連しているという一言を入れると意識が違ってくる。それぞれにそれぞれの役割を果たそうとしており、協力して教育活動に取り組んでいるが、このコロナ禍の影響もあり、かなり皆さん負担感が大きくなっているのではないと思う。児童や保護者に対して最大限のことをとってやっているが、直前に様々なものがおろされてきたり、直前まで決まらなかったりすることも多く、振り回されてしまっている感じは否めない。					
	<p>【改善策・考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各行事や活動では、より一層「ねらい」を大切にしてい。重点目標のどことつながっているのかを考えてから、計画・実施していく。 ・コロナ禍での対応は、細かな点まで学校全体での共通理解やコミュニケーションが必要になる機会が多かった。担当任せにするのではなく、一人一人が自覚を持って諸活動に取り組み、疑問を自ら積極的に発信していく。 					
11	本校独自評価項目					
	児童は主体的に挨拶をする。	1	24	7	2	0
	児童の言葉遣いはよい。	1	19	14	0	0
	児童は、読書が好きである。	1	28	5	0	0
	理由 こちらから挨拶をし、目が合っても、挨拶を返せない児童が多い。挨拶が返ってくるまで、何度も声をかけたり、名前を呼んだりして、粘り強く対応したい。					
	<p>【改善策・考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遣いは、まずは教員が正しい言葉遣いの手本となるように行動していく必要がある。家庭環境や社会的な環境により、無意識のうちに乱暴な言葉遣いが身に付いてしまっている児童もいるので、全体指導や個別での声かけを粘り強く続ける。 ・挨拶は、コロナ禍の影響で、表情が見えなかったり、声を出しづらかったりする状況ではあるが、人とのつながりをつくる大事なコミュニケーション方法であることを伝え、指導していきたい。あいさつ運動は感染状況を見つつ、学校全体で行う体制に戻していきたい。 					

|